

平成24年12月18日

秩父市議会議長 小 櫃 市 郎 様

議会改革特別委員長 浅 海 忠

議会改革特別委員会行政視察報告書

1 期 日 平成24年10月23日(火)

2 視察先 埼玉県加須市、久喜市

3 参加者	委員長	浅海 忠	副委員長	新井 豪
	委員	金崎 昌之	委員	上林 富夫
	委員	富田 俊和	委員	小池 治
	委員	福井 貴代		

4 視察目的

埼玉県加須市 「予算特別委員会の設置について」

○ 市の概要

加須市は、平成22年3月22日に当時の加須市、騎西町、北川辺町及び大利根町が合併し、人口約11万7千人の田園都市となった。埼玉県の東北部、関東平野のほぼ中央部を流れる利根川流域にあり、利根川の堆積で形成されたという平坦地で古き良き歴史を残すまちで、市域は東西と南北それぞれ16kmの広がりを持ち、面積133.47km²、都心からおおむね50km圏内にあり、群馬県、栃木県及び茨城県に接している。

主要な道路は、東北縦貫自動車道と国道122号が南北方向に、国道125号と国道354号が東西方向に走り、東側で国道4号に近接している。

鉄道は、東部伊勢崎線に加須駅と花崎駅、東部日光線に新古河駅と柳生駅があり、JR宇都宮線・東部日光線の栗橋駅に近接している。

さらに、豊かな自然に恵まれた環境の中で、埼玉県内一の生産量を誇る米を始め、梨、トマト、いちじく、いちごなどの豊富な農産物があるほか、歴史ある建物や祭事など、各地に多くの貴重な財産をもつ新市でもある。

○ 予算特別委員会の設置概要

加須市議会の議員定数は32名。3月定例会で予算特別委員会、9月定例会で決算特別委員会を設置し、それぞれ議長から指名された9名の委員で構成している。

委員会の審査日程は5日間で、初日に正副委員長の選出、2日目から3日間の日程で各課長との質疑、応答を行い、5日目には総括質疑として、市長・部長との質疑、応答を行い、意見・要望、採決を行っている。

埼玉県久喜市 「予算決算常任委員会の設置について」

○ 市の概要

久喜市は、平成22年3月22日に当時の久喜市、菖蒲町、栗橋町、鷺宮町が合併し、人口約15万5千人の新市となった。埼玉県の東北部に位置しており、面積は82.4km²、都心から約50kmで北東から南西にかけて細長い形状をしている。

地形はほぼ平坦で、市の北側は坂東太郎の異名を持つ利根川に面しており、市の南西部には元荒川が流れている。さらに日本三大農業用水と言われている葛西用水路や見沼代用水が通るなど、豊かな川の流れに恵まれた地勢となっている。

鉄道は、JR宇都宮線・東部伊勢崎線に久喜駅、JR宇都宮線・東部日光線に栗橋駅があり、乗換駅として重要な役割を果たしている。

主要な道路は、国道4号、国道122号、国道125号、主要県道さいたま栗橋線などが通り、東北縦貫自動車道のインターチェンジ、首都圏中央連絡自動車道と東北縦貫自動車道のジャンクションなど、県北東部の交通の要衝地としての発展が期待されている。

また、関東最古の神社ともいわれる鷺宮神社や、栢間古墳群の中心をなす古墳である天王山塚、江戸時代の日光街道の関所跡である栗橋関跡など、史跡や旧跡も市内に多く点在している。

○ 予算決算常任委員会の設置概要

久喜市議会の議員定数は34名。議長と監査委員を除いた32名の委員で予算決算常任委員会として設置している。

予算決算常任委員会に付託する議案は、一般会計予算議案（補正予算を含む）及び一般会計決算認定議案のみとしており、分科会を設置し、それぞれの常任委員会が所属する部局に関連する事項（歳入を含む）を審査している。

予算決算常任委員会の1日目は、分科会を常任委員会の閉会後に開催し、説明員は所管部局の他、各部の判断において必要最小限の担当職員が出席する。また、決算認定議案は監査委員も出席する。

2日目は、予算決算常任委員会を開催し、分科会長の報告、報告は事前に会議録の素案を閲覧できるようにすることで簡潔に行っている。執行部の出席者は、市長、副市長、教育長、会計管理者、各部長、各総合支所長としている。

本会議最終日には、予算決算常任委員長報告、質疑、討論、採決を行っている。

【予算審査特別委員会について 浅海 忠】

加須市議会の委員会の審査日程については、5日間で、初日に委員長選出、2日目から3日間の日程で各課長との質疑を行って、5日目に総括質疑として、部長・市長との質疑を行い、意見・要望、採決を行っている。事務整理のための休会日を十分に取るため、平成24年3月議会は会期が29日間となっている。また、委員会の審査状況により、時間延長を行い夜間まで委員会を延長し、職員の拘束時間が長くなっている状況である。

久喜市議会の予算決算常任委員会は、各常任委員会の委員で構成する分科会によって審査される。分科会は、常任委員会の閉会後に開催し、分科会での討論、採決は行わないが分科会長は、分科会委員の賛否の意志を表明する機会を設ける。予算決算常任委員会は最終日に、分科会長報告・質疑・採決を行う。

課題として、常任委員会と分科会との切り替えの審査の複雑化や、ほぼ全員が予算決算常任委員会委員のため、2日目予算決算常任委員会での討論、採決の後、再び同日、本会議で、同じ討論、採決を行わなくてはならないなどの効率性の課題があげられる。

両市議会の予算特別委員会・予算決算常任委員会の取り組み状況を視察したわけであるが、会期日程の大幅な延長や職員の拘束時間延長、審査の複雑化などの課題がみられた。

秩父市議会のあるべき姿として、委員会での審査を今まで以上にきめ細かく行うこと、執行部からの議案説明や特質すべきことなどの詳細な説明を受けることが、現状の常任委員会での審査を充実していくことが最善であると感じられた。

【「予算委員会設置」を職員が賛成するわけが無い 新井 豪】

「予算委員会の設置」は議員の権限を大きくさせる反面、予算をスムーズに通過させたい当局側にとっては大きな障壁となる事は間違いない。そこで、予算委員会を擁する今回の2市の視察になったが、残念ながら両市とも「市職員のみ」の対応で、議員の意見を聞く機会が全く無かったのである。職員方々には丁寧な説明をして頂き感謝しているが、予算委員会設置をデメリットとしか捉えられない「当局側」の意見しか聞けない視察となり、議会運営や会期日程等のデメリットだけが説明され、見方を変えれば、予算委員会設置がどれだけ当局にとって「有難くない」かが伺えた視察となった。

今までの秩父市議会では、予算案に対し「賛成か反対」の意思表示しかできなかった。この予算案に修正をかけたリコミットする事ができるようになったら、議員の存在意義は格段に向上する筈である。「何が何でも予算委員会を設置すべき」とまで私は強い意見を持していないが、それを「会期が延びる」等の理由で予算委員会設置を拒む議員がいたとしたら、よほど市長・当局を信頼し味方しているのか、または、「これ以上議員の存在価値を高める必要はない」と思っているかのどちらか、と私は感じる。どうしても議員が設置に反対するのなら、十分に説得力ある理由で私を納得させて欲しいものである。

【労力を惜しまずにつき込むべき場所 金崎 昌之】

10月23日、予算委員会の設置について加須市議会と久喜市議会を視察してきた。両市議会を見てきた限りでは(もっとも、県内で予算委員会を設置しているのは、両市とその他数市に過ぎないのだが)、予算委員会を設置している主な動機が「地方自治法により、予算案という一つの議案を各常任委員会へ分割して付託することに違法性があるとされている」からということであり、予算委員会を設置したことで審議が深まり議会が活性化した等、実の効果があつたかという点では、はなはだ心もとない答えしか得られなかった。

しかし、そうであるならば、積み重ねる中でなじんできた現行の形を基本として、いかにこれを活発化させ審議を深めていくのかを模索していくことの方が、はるかに現実的でありかつ実利的であろう、というのが今の私の結論だ。

なお、「予算委員会の設置に対し、議会の会期が長くなり議員と職員の負担が増える、仕事が増えるなどの理由から反対意見も多くあるが、我々は議員も職員も惜しむ労力など無いと考える」とする意見もあるようなので、これに反論しておきたい。「得るものが少なく時間を浪費するといった形だけの「改革」による無駄な労力は、逆に惜しまなくてはならない」と。なにせ、地方議会の現状について「満足していない」が6割を超え、その理由が「議会の活動が住民に伝わらない」53.3%、「行政のチェック機能を果たしていない」33.2%、「地方議員のモラルが低い」32.5%という惨状なのだ(日本世論調査会・06年調査)。議員として労力を惜しまずにつき込むべき場所は、もっと他に、多くある。

【予算委員会視察について 上林 富夫】

議会改革特別委員会において秩父市でも予算委員会を設置してはどうかの提案があり、すでに予算委員会を設置しているウドンと鯉のぼりのまち、加須市とアニメの元祖、鷲宮神社(旧鷲宮町)で有名な久喜市へ勉強に行ってきた。

人口もそれぞれ約11万人と15万人を数える市である。当然、予算規模なども秩父市とは違い数段、上のレベルである。

議会として予算委員会を設け予算内容をチェックすることも必要だと思うが、設置によるデメリット的な面もあるようである。まず、日程的に4~5日多くなりちょうせいが大変とのことである。

委員会の運営では、加須市では議長指名の9名で構成。久喜市では議長、監査委員を除く全議員で構成し分科会を設け分割審議で行っているとのことである。また、予算決算常任委員会で討論・採決後、再び本会議で委員会と同じことを行うという効率性の悪さも課題のようだ。委員会設置により事務局などの仕事の量も増すため、当然ながら職員増も必要になるとの話であるが、秩父市でそれが可能なのかも考えないといけない。決算委員会も重要だが予算委員会はより重要だと思うから何らかの方法を考えないといけないが、視察して私的だが思ったことは秩父市の規模では新たな予算委員会を設けずとも現在の常任委員会の中での審議方法や委員会開催時期などを考慮することで充分、審議なども可能ではないかと思うが如何なものだろうか。

【議会改革特別委員会視察報告書 富田 俊和】

平成 24 年 10 月 23 日、私達特別委員会は議会改革の一環として予算委員会を設置している加須市、久喜市の先例 2 市を訪ねた。

まず加須市の概要であるが、平成 22 年 3 月 23 日に 1 市 3 町が合併し、新「加須」が誕生した。人口は約 11 万 7 千人であり秩父市の 1.7 倍である。議員定数は 32 人であり現職員数も 32 人である。予算特別委員会はその議会の度に設置され委員数は 9 人であり、その選出の仕方は 3 名以上で組織する会派により、会員 3 名に 1 名の割合で選出し議長がこれを指名する。一般会計の当初の予算は一括してこの予算特別委員会で審査し補正予算及び特別会計については各常任委員会に付託するものである。予算委員会は会期中 4 日間審査するが、当局の対応は各課長が主に行い部長はその段階の後に行うとの説明である。会期は事務処理の時間も増えるため 1 か月必要になるとの説明であった。

次に久喜市であるが、久喜市も加須市と同様に平成 22 年 3 月 23 日に 1 市 3 町で合併し人口 15 万 3 千人の都市である。予算委員会は加須市との相違点として、予算決算の常任委員会であり又、分科会を設けている。議員定数は 34 人であるが、現員数は 33 人である。予算決算常任委員会は 32 名で構成し、予算、決算それぞれ 16 名に分かれて審査するものであり、先に予算を審査したものがその決算を審査することになればよりチェックがしやすい利点があるとの説明を受けた。

問題点もあるが今度の視察は有意義であった。両市の事務局に感謝し報告を終わります。

【秩父市議会に予算特別委員会設置の意義について 小池 治】

議会改革特別委員会では、当市議会に予算案を審査する委員会を設けるべきかについて審議を行なっている。その一貫として、すでに予算委員会を作り活動している加須市と久喜市を視察させていただいた。

〈加須市議会〉 議会定数32人中予算特別委員会は9名で構成されている。選出は、会派3名に1名の割合である。(5人会派では1名、6人会派では2名の選出という具合)また、9人以外の23名は傍聴できるし、資料も配布される。

今までの委員会審査で、当局に議案修正を申し出たことはないということであった。この特別委員会設置によるメリットとして、予算特別委員会で集中して審議できることが良い、ということ。

〈久喜市議会〉 久喜市議会は、定数34人、うち現委員数は33人。久喜市の場合、常任委員会として5委員会あり、そのうちの1つが、「予算決算常任委員会」である。構成は、議長と監査委員を除き32人で構成される。そして、更にこの予算決算常任委員会を4つの分科会に分けている。しかも、分科会の会長、副会長は、各々4常任委員会の委員長、及び副委員長を充てている。特徴は、この32人を16名ずつ予算と決算の委員会に分けている点である。任期は1年で、予算を審議した委員会は、次に決算の委員会審議を行なうということで、議案の整合性が図られるというメリットがある反面、常任委員会と分科会との切り替えの審査の複雑化というデメリットが生じているということである。

【予算審査特別委員会の設置について 福井 貴代】

我が市議会では、隔年で決算特別委員会を設置して決算審査を行っている。ならば大事な予算についても特別委員会を設置すべきではとの提案があり、実際に予算委員会を設置している加須市議会と久喜市議会を視察させて頂いた。

加須市議会では、予算特別委員会を設置して、一般会計の当初予算について審査をしている。特別会計予算や補正予算については常任委員会に付託している。議会開催中、5日間の予算審査を入れているため、会期日程は29日と長い。加須市は平成22年3月に旧加須市、旧騎西町、旧北川辺町、旧大利根町の1市3町が合併して発足した新しい都市である。

一方、久喜市議会は予算決算常任委員会を設置し、一般会計の予算議案（補正予算を含む）及び、一般会計の決算認定議案を審査している。本会議で予算決算常任委員会に付託された議案を更に、4つの分科会へ分担付託して詳細審査を行う。そして「分割付託の違法性の解消を図る」ため、分科会で詳細を審査した後、予算決算常任委員会に戻して討論・採決。最終的に本会議で同じ事をもう一度討論・採決を行っている。少し複雑で、効率性が課題であるとのことであった。久喜市も平成23年3月に旧久喜市、旧菖蒲町、旧栗橋町、旧鷲宮町の1市3町が合併している。今回の視察を終えて、審査の手順にもさまざまな方法がある事を学んだ。しかし私にはわかりにくく、スッキリしない印象が残った。正直なところ、私は予算委員会を特別に設ける必要はないのではと感じた。我が市の現状の方法の中で、予算審査を丁寧に行うことで充分対応できると感じた。